「真冬の昼の夢」転じて「カンタータ・リング」となる

如何にしてそれが実現したかの顛末書

カンタータの指輪物語は 2016 年 2 月 11 日の「真冬の昼の夢」として始まるのだが、その日、我らが総裁ジョン・エリオット・ガーディナー卿はハノーバーでフェリックス・メンデルスゾーン・バルトルディの「真夏の夜の夢」を手兵モンテヴェルディ合唱団、ロンドン響、そしてブルーノ・ガンツと共に演奏することになっていた。その日、ペーター・ヴォルニー（Bach Archive 所長）と私自身（当時は新任の Bachfest 文芸顧問）は演奏会前にジョン・エリオットと 2018 年の Bachfest プログラムには何をキー・アイテムにすべきか話し合うためハノーバーに向かっていた。私は準備万端で、１つの企画を懐に、それを熱心に披瀝した。ジョン・エリオットはそれに興味を示してくれたが、彼自身には別のプランがあった。「我々はバッハのカンタータ BEST 30 を短時間のうちにひとつずつ演奏すべきだ。これらの作品は信じ難いほど優れたもので、どこから見ても受難曲に劣るところはない。2018 年は観客にそれを示すべきだ！」
この企画議論は妥協と宿題をもって終わる：ジョンのためにまず我々自身、200 もの Bach カンタータから何が 30（以上）の BEST 作品か決めること。割に合わない題目の仕事、全く不可能な仕事。事実、私はその後数日間、胸を引き裂くような決断の末に 33 の作品名が私のリスト上に残り、それ以上作品を間引くのは無理と悟ったのだ。わが仲間の『間引き屋』たちもそれは同様で、ジョン・エリオットは悲しそうに 38 作品のリストを提示し、ペーターに至っては Bach の BEST 30 は彼の場合少なくとも 52 に登るのが現実だと結論した。この『ヒット・パレード』に則って私はランク付けをしてみたところ、驚いたことに 15 作品について全員が不可欠と考え、さらに多くの一致も見られた。（別表参照）

しかしこのリストをどうやって実現可能な演奏会企画に仕上げることが出来るのか？
近年、『カンタータの日』（2016 年から Bachfest 企画として確立）に対する極めて高い評価を得ていた経験を基に、観客は 1 日 4 曲の演奏に立ち会えると想定し、30 のカンタータならざっと 8 演奏会という計算で、ドイツ国内各地と海外から 2018 Bachfest に参加するゲスト達が意志決定出来るよう、理想的にはそれらを 1 週間にまとめて、ライプツィヒのふたつの教会、トーマスとニコライで交互に行うという目算だ。さらにこの機会に Bach カンタータは祝祭主日の礼拝はもちろん、通常の日曜礼拝ではトーマス教会でモテットも併せて歌うという伝統を企画に取り込めて、バッハ生誕 333 年記念と相乗させて 33 作品にリストを拡大できるというのも美味しい。
そんなこんなで、金曜夜に始まり日曜夜に終わる 10 日間の演奏会、2 晩は睡眠と休養確保でしっかり食事するも良し、教会の固い座席に座り続けるのを厭わない方々はレクチャーその他を聴講するも良し、という構想となった。
プログラムとしてどの作品を最終的にフィーチャーするのかという問題、とりわけ 1 つの

意見に我々がまとまっていない状況ではあったが、カンタータの順番を決める唯一の賢明な方法は待降節第一主日から始まり、永遠の日曜日で終わる教会暦に従ってグループ分けすることだと気付いたら思いの外簡単に片付いた。ということで、サイクルはこうした壮大な作業に相応しく、「来たれ、異教徒の救い主よ」BWV61 で口火を切り、その始まりの合唱をバッハは聴き慣れたルターのコラールにフランス風序曲の装束を纏わせている。2 日後のエンディングは疑うまでもなく不必要なウェイクアップ・コールとなる：「目覚めよ、と呼ぶ声あり」BWV140 だ。
この演奏会は教会年を丸々一周するもので、それを 18 時間の音楽で巡るのであるから、このマンモス・プロジェクトを何と呼ぶかはもう一人の偉大なライプツィヒ出身音楽家にあやかった四部作の呼称を拝借して、『カンタータ・リング』とする以外ない。

『リング』の舞台には様々な演奏者が考えられたが、ここで《BEST》を客観的に選ぶことの方がもっと不可能なことで、我々としてはまずバッハの全カンタータを既に演奏あるいは録音しているアンサンブルと指揮者はすべて招待しようという仕組みについて合意した。招待を辞退するものは一人もなかった。トン・コープマンとアムステルダム・バロック管弦楽団及び合唱団、鈴木雅明と BCJ、新任のハンス・クリストフ・ラーデマン指揮によるゲヒンガー・カントーライたちだ。もちろん我らが総裁ジョン・エリオット・ガーディナー卿とモンテヴェルディ合唱団も、そしてバッハ自身のトーマス教会合唱団がライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団とともにカントールのゴットホルト・シュヴァルツ指揮で加わり、彼らの音楽的武勇を『カンタータ・リング』で示してくれる。

カンタータ 33 曲を 48 時間でというのが聴衆 – つまりリング全曲に参加する人々 - にどう受け入れられるか、厳しい実験だ。バッハの音楽は決して退屈しない、それは本当だ。しかし元々彼が作曲したのはワイマールやとりわけ殆どはライプツィヒでの特定の日曜日や祝祭日の教会礼拝のための音楽としてで、それらは実際の説教の前にその時読まれる福音の内容について音楽的な説明や説教を会衆に提供するものだったのだ。この本来の文脈に関心を誘導し、我々の耳には往々にして奇異に聞こえるバロック時代の韻律を理解する手助けとして、当該の福音や使徒書簡の文章をそれぞれのカンタータの前に読んでもらうことにした。この役目を引き受けてくださった両教会の牧師さん、どうも有り難うございました。

カンタータの続きとしてもうひとつの要素も分離してくる。バッハの時代や 17-18 世紀の間は、聖トーマスの合唱団員たちがライプツィヒの主要教会で主軸の音楽に加えてモテットを歌うのが慣例とされていた。そのレパートリーは主に『Florilegium Portense』、プフォルタのカントール、エルハールト・ボーデンシャッツによるモテット選集からの作品で、1618 年初版（ピッタリ 400 年前）、1600 年頃の（Lasso、Gallus、Calvisius など、p.326

参照）裕に 100 を超える小モテットを集めた印刷本だ。どのモテットがいつのライプツィヒ日曜礼拝で予定されていたかは、最近の出版物で知ることが出来るので、我々としてはその昔ながらの音楽作業を『リング』の中で甦らせたくなる。ほぼすべてのカンタータについて、『Florilegium』からの当該作品あるいはバロック初期の他の妥当なモテットが前座として、正真の歴史的バッハ体験に少しでも近づけるよう、それも正統な会場で、披露された。

我々の『真冬の昼の夢』が『カンタータ・リング』に変身できたこと、そしてそれを満員のバッハ教会 – 我々にとってはバッハの『フェスティバル・ホール』- で聴けることは喜びに堪えない。この特別企画実現を支援いただいたすべての方々、とりわけ演奏者たちとリングの発起人ジョン・エリオット・ガーディナー卿に、心よりの感謝を申し上げる。

ようこそ、遠路からあるいは近隣からいらした、バッハを愛するすべての皆さん！
ここでのバッハ音楽の優れた演奏者たちによって、忘れられない記憶と素晴らしい音楽体験が皆さんに届きますように。但し、皆さんがどれほど『カンタータ・リング』に熱心であっても、新任のトーマス教会カントールになったヨハン・セバスチャン・バッハが 1723 年 5 月 30 日にライプツィヒの人々に挨拶した就任の音楽の中の言葉をお忘れなく。
「貧者は満たされるべく食すべし」

Michael Moul
Bachfest 芸術監督

DIE 30 >BESTEN< KANTATEN
カンタータ BEST 30

ERGEBNIS DER UMFRAGE / 選抜作業の結果
選者: Sir John Eliot Gardiner (JEG), Michael Maul (MM), Peter Wollny (PW)

I. KANTATEN MIT DE-TEMPORE-BESTIMMUNG
教会暦のカンタータ

Nun komm, der Heiden Heiland, BWV 61 (1. Advent)	MM
Schwingt freudig euch empor, BWV 36 (1. Advent)	JEG
Wachet! betet! Betet! Wachet! BWV 70[a] (2. Advent)	JEG,MM
Christen, ätzet diesen Tag, BWV 63 (1. Weihnachtstag)	JEG
Gelobet sejst du, Jesu Christ, BWV 91(1. Weihnachtstag)	PW
Unser Mund sei voll Lachens, BWV 110 (1. Weihnachtstag)	JEG,PW
Jauchzet, frohlocket, BWV248/1(1. Weihnachtstag)	MM
Süßer Trost, mein Jesus kömmt, BWV 151 (3. Weihnachtstag)	JEG,MM,PW
Jesu, nun sei gepreiset, BWV 41 (Neujahr)	MM
Sie werden aus Saba alle kommen, BWV 65 (Epiphanias)	PW
Herr, wie du willt, BWV 73 (3. So. n. Epiph.)	PW
Jesus schläft, was soll ich hoffen, BWV 81(4. So. n. Epiph.)	JEG
lch habe genung, BWV 82 (Mariae Reinigung)	JEG,MM,PW
Mit Fried und Freud, BWV 125 (Mariae Reinigung)	PW
Erhalt uns, Herr, bei deinem Wort, BWV 126 (Sexagesimae)	MM
Herr Jesu Christ, wahr' Mensch und Gott, BWV 127 (Estomihi)	MM,PW
Du wahrer Gott und Davids Sohn, BWV 23 (Estomihi)	PW
Sehet! Wir gehn hinauf gen Jerusalem, BWV 159 (Estomihi)	JEG,MM,PW
Wie schön leuchtet der Morgenstern, BWV 1 (Maria Verkündigung)	JEG,PW
Himmelskönig, sei willkommen, BWV 182 (Palmarum)	JEG,PW
Christ lag in Todes Banden, BWV 4 (1. Osterfeiertag)	JEG,MM,PW
Der Himmel lacht, BWV 31 (1. Osterfeiertag)	JEG,PW
Bleib bei uns, den es will Abend werden BWV 6 (2. Osterfeiertag)	JEG,MM
Halt im Gedächtnis Jesum Christ, BWV 67 (Quasimodogeniti)	MM
Weinen, Klagen, Sorgen, Zagen, BWV 12 (Jubilate)	JEG,MM,PW
lhr werdet weinen und heulen, BWV 103 (Jubilate)	JEG,MM,PW
Wir müssen durch viel Trübsal, BWV 146 (Jubilate)	JEG,MM,PW

Sie werden euch in den Bann, BWV 44 (Exaudi)	PW
Erschallet ihr Lieder, BWV 172 (1. Pfingstfeiertag)	PW
Also hat Gott die Welt geliebet, BWV 68 (2. Pfingstfeiertag)	JEG
Gelobet sei der Herr, BWV 129 (Trinitatis)	PW
Die Elenden sollen essen, BWV 75 (1. So. n. Trin.)	JEG, MM
O Ewigkeit, du Donnerwort, BWV 20 (1. So. n. Trin.)	MM, PW
Brich dem Hungrigen dein Brot, BWV39 (1. So. n. Trin.)	JEG, MM, PW
Die Himmel erzählen die Ehre Gottes, BWV 76 (2. So. n. Trin.)	PW
lch hatte viel Bekümmernis, BWV21 (3. So. n. Trin.)	MM, PW
Ach, Herr, mich armen Sünder, BWV 135 (3. So. n. Trin.)	PW
Christ unser Herr zum Jordan kam, BWV 7 (Johannistag)	JEG
Freue dich, erlöste Schar, BWV 30 (Johannjstag)	JEG
Vergnüte Ruh, BWV 170 (6. So. n. Trin.)	MM
Es ist dir gesagt, Mensch, BWV 45 (8. So. n. Trin.)	JEG
Herr, gehe nicht ins Gericht, BWV 105 (9. So. n. Trin.)	JEG, MM, PW
Schauet doch und sehet, BWV 46 (10. So. n. Trin.)	PW
Nimm von uns, Herr, BWV 101 (10. So. n. Trin.)	JEG, MM, PW
Herr, deine Augen, sehen nach dem Glauben, BWV 102 (10. So. n. Trin.)	PW
Mein Herze schwimmt im Blut, BWV 199 (11. So. n. Trin.)	MM, PW
Siehe zu, dass deine Gottesfurcht, BWV 179 (11. So. n. Trin.)	PW
Allein zu dir, Herr Jesu Christ, BWV 33 (13. So. n. Trin.)	PW
Jesu, der du meine Seele, BWV 78 (14. So. n. Trin.)	JEG, MM, PW
Es ist nichts Gesundes an meinem Leibe, BWV 25 (14. So. n. Trin.)	PW
Jauchzet Gott in allen Landen, BWV 51 (15. So. n. Trin.)	JEG
Liebster Gott, wenn werd ich sterben, BWV 8 (16. So. n. Trin.)	PW
Wer weiß, wie nahe mIjr mein Ende, BWV 27 (16. So. n. Trin.)	JEG, MM, PW
Christus, der ist mein Leben, BWV 95 (16. So. n. Trin.)	MM, PW
Komm, du süße Todesstunde, BWV 161 (16. So. n. Trin.)	PW
Es erhub sich ein Streit, BWV 19 (Michaelistag)	JEG, MM, PW
Herr Gott, dich loben alle wir, BWV 130 (Michaelistag)	PW
Wer sich selbst erhöhet, BWV 47 (17. So. n. Trin.)	PW
Gott soll allein mein Herze haben, BWV 169 (18. So. n, Trjn.)	JEG, PW
Ich will den Kreuzstab gerne tragen, BWV 56 (19. So. n. Trin.)	JEG, MM, PW
Wo soll ich fliehen hin, BWV 5 (19. So. n. Trin.)	JEG
lch elender Mensch, BWV 48 (19. So. n. Trin.)	JEG, PW
Schmücke dich, o liebe Seele, BWV 180 (20. So. n. Trin.)	MM, PW

Ein feste Burg ist unser Gott, BWV80 (Reformationsfest)	JEG, PW
lch armer Mensch, ich Sündenknecht, BWV55 (22. So. n. Trin.)	JEG
Machec dich, mein Geist, bereit, BWV 115 (22. So. n. Trin.)	JEG, PW
O Ewigkejt, du Donnerwort, BWV 60 (24. So. n. Trin.)	PW
Wacet auf, ruft uns die Stimme, BWV 140 (27. So. n. Trin.	JEG, MM, PW

II. KANTATEN OHNE BESTIMMUNG IM KIRCHENJAHR
様々な機会のためのカンタータ

In allen meinen Taten, BWV 97	PW
Aus der Tiefen rufe ich, Herr, BWV 131	MM, PW
Dem Gerechten muss das Licht, BWV 195	PW
Gott ist unsre Zuversicht, BWV 197	PW
Actus tragicus, BWV 106	JEG, MM, PW
Lass, Fürstin lass noch einen Strahl, BWV 198	JEG, MM

lll. LESUNGEN DER EVANGELIEN – UND EPISTELTEXTE
福音及び使徒書簡の朗読

Pfarrerin Britta Taddiken (St. Thomas, Leipzig)

Pfarrer Martin Jundertmark (St. Thomas, Leipzig)

The Reverend Dr. Robert G. Moore (Houston/Leipzig)

Pfarrer Bernhard Stief (St. Nikolai, Leipzig)

Pfarrer I. R. Christian Wolff (Leipzig)